

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（12月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、12月15日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「一部で持ち直しの動きがみられている」としました。基調判断は3か月連続の据え置きです。大型小売店は弱目の動きが続いていますが、観光が厳しい状況にあるものの引続き持ち直しています。また、12月短観の結果から建設など一部の業種に震災の復興需要の波及効果がみられていることが確認されました。

百貨店・スーパー等大型店の売上高は、家電製品（薄型TV等）の減少が続く中、月により理由は区々であるものの（9月は台風と前年<たばこ増税前の駆け込み需要>の裏、10月は天候要因による季節商品の不振）、このところ冴えない動きが続いています。また、設備投資も低水準で推移しています。この間、これまで持ち直しの動きを主導してきた自動車販売は、13か月振りに増加しました（+19.8%）。ただし、一部を除き供給制約がほぼ解消したため、供給制約解消に伴う持ち直しの力は弱まっており、前年の水準がエコカー補助終了に伴う駆け込み需要の反動から低かった（-20.2%）ことを勘案すれば、実勢では横這い圏内の動きとなっています。

一方で、観光は、震災後大きく落ち込んだ後、道内・道外観光客を中心に持ち直すというこれまでの流れが10月までは続きました。別紙（「道北地域における観光の動向」）のグラフにある通り、空港（旭川、稚内、女満別、紋別）利用客数は、前年比5.7%と減少しましたが、7か月連続で前年比減少幅が縮小しました。10・11月の旭山動物園入園者数、10月の層雲峡温泉入込客数も、前年比減少幅が縮小しました。道北4地区（ウトロ温泉地区、網走・温根湯地区、層雲峡・白金地区、利尻島地区）における宿泊客数についても、前年比1.2%と、統計が利用可能な5月以降で減少幅は最小となりました。

また、一部で震災の復興需要の波及効果がみられていること等を背景に、本日公表の12月短観における道北地域の企業の景況感は、建設を中心に改善しました。なお、公共投資を巡る外部環境は、国の予算事情もあって引続き極めて厳しいものの、道北地域における公共工事請負金額は、足もとと工事発注のタイミングもあって横這い圏内で推移しています。ところで、短観の「9月に大幅に悪化、12月に大幅に改善」という動きは、全国大企業（「9月は自動車・電機におけるばん回生産を主因に製造業が改善。12月は海外景気の減速や円高等から製造業が悪化」とは逆方向です。これは、当地が建設等内需関連業種のウエイトが高い中、全国的にみても輸出関連製造業を取り巻く環境が悪化している一方、内需（復興関連需要）は底固く推移していることによるものです。

このほか、10月のオホーツク漁業は主力の秋鮭、ほたてが水揚げ数量は減少したものの相場の上昇から水揚げ金額は前年を上回りました。住宅は、8、9月と住宅エコポイントの駆け込み需要の反動から減少した後、10月は3か月振りに増加しました。

生産は、震災特需が剥落し、減産する動きがみられる一方、ごく足もとでは一部で新製品の作り込みから増産する動きもあり、基調としては横這い圏内の動きとなっています。

先行きを展望すると、復興需要の波及効果は一定の分野（建設における下請け作業等）では引続き期待されるものの、大きな広がりをもって拡大するかどうかは現時点では不明です。一方で、公共事業については、被災地への公共事業予算の重点配分から先行き道北地域の予算が削減される可能性があります。また、円高や海外・国内景気の減速は観光にはマイナスとなるほか、外部環境の悪化に伴う消費マインドの悪化がその他消費に悪影響を及ぼす可能性もあります。このように先行きについては、懸念材料の方が多いと言わざるを得ず、不透明感が強い状況であること、先月と変わりありません。

個別の動きについては、[金融経済概況](#)をご参照ください。

なお、今月から道北地域の金融経済動向をより適切に把握できるよう、金融経済概況の内容を一部見直しました。主な変更点は、下記の通りです。

付表の「消費」を「消費・観光」に変え、新たに旭山動物園入園者数、層雲峡温泉入込客数、ホテル・旅館宿泊客数の統計を加えました。

過去からの推移が分かるよう、付表計数の掲載期間をより長期化しました（11月まで：過去2か月+過去2四半期 12月：過去3か月+過去4四半期）。

製造業の「出荷」動向については、「生産」動向に変更しました。

最終需要項目別動向の「個人消費」でコメントしていた「貨物輸送量」および「電力消費量」は、変動に個人消費以外の要素も含まれるため、コメントを割愛しました。

「銀行券受払動向」は、警備輸送会社による現金集配サービスの普及等により地域の景気との相関が薄れていることもあり、コメントを割愛しました。

付表に掲載する統計の種類や付表計数の掲載期間については、一層の充実を図る方向で引続き見直しを行っているところです。見直しが完了次第、新様式で公表する予定です。

ところで、機材小型化もあって、道内でも空港利用客数の落ち込み幅が大きかった旭川空港ですが、国内ではスカイマークの旭川-成田便が10月30日から運行開始となり、12月8日から1便増便され、1日3便となりました。旭川-成田便は、スカイマークの「成田シャトル」第一号とあって大きな注目を集めました。戦略的な価格設定（一部座席は980円）で登場した「成田シャトル」が新しい顧客層を開拓するきっかけになることを期待したいと思います。国際チャーター便では、マカオ航空（12/4日）、中国東方航空（12/5日）、アジアナ航空（12/17日）が相次いで運行再開または開始となります。現状旭川空港を利用した外国人観光客が札幌、登別等他の観光地に向かうケースも多いと言われていますが、道北地域の魅力をPRしてうまく誘導できれば経済効果は大きいとみられます。今後の展開に注目しています。

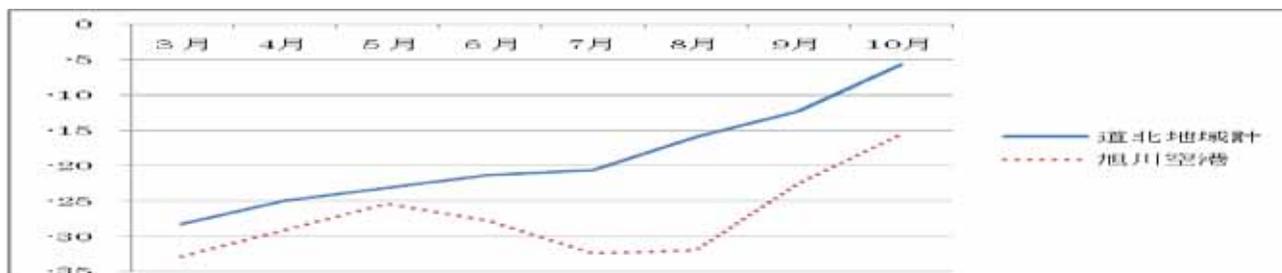
2011年12月15日

荒木 光二郎

(別紙)

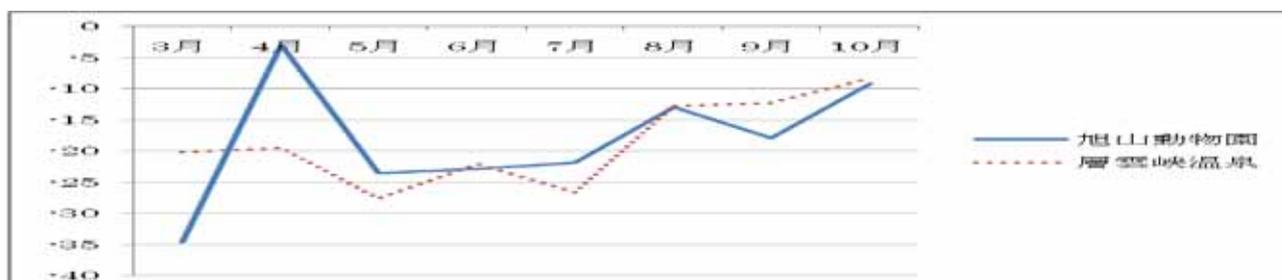
道北地域における観光の動向

空港旅客数推移 (前年比・%)



(資料) 旭川空港、稚内空港、女満別空港、紋別空港。

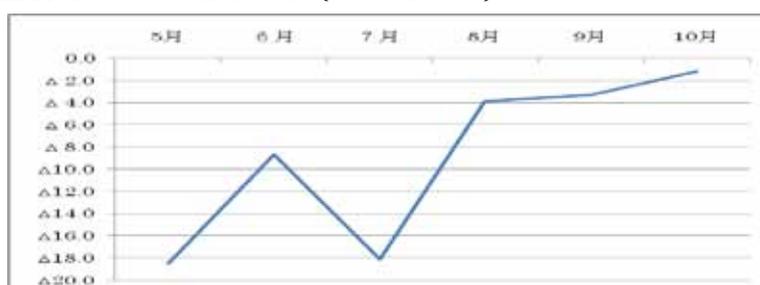
旭山動物園および層雲峡における観光入込客数推移 (前年比・%)



(注) 旭山動物園の10月は、10・11月合計の前年比。

(資料) 旭川市、道「観光地点動向調査」。

道北4地区観光旅館宿泊客数推移 (前年比・%)



(注) 道北4地区は、ウトロ、網走・温根湯、層雲峡・白金、利尻島。

(資料) 国際観光旅館連盟北海道支部。

旭川空港における国際便および成田便の動向 (10月以降)

エバー航空	旭川-台北	10/2日運行再開
スカイマーク	旭川-成田	10/30日運行開始 (1日2便、12/8日より1日3便)
マカオ航空	旭川-マカオ	12/4日運行開始
中国東方航空	旭川-上海	12/5日運行再開
アジアナ航空	旭川-ソウル(仁州)	12/17日運行再開(週2便、~2/25日)